

2004年10月20日

六ヶ所村再処理工場ウラン試験実施に反対します

原子力委員会様

六ヶ所村再処理工場運転に向けて、ウラン試験実施が近いと聞き、被爆地広島から強く反対の意思を表明します。

広島と長崎の被爆から来年で60年になろうとしています。今も被爆者はさまざまな病気と精神的苦痛を抱えながら、二度とあのような悲劇が繰り返されないことを祈って生きています。

原子力の「平和利用」は行き詰まっています。私は10月1-2日、オーストリアのリンツ市で開催されたNGOの国際シンポジウム「原子力平和利用の嘘、核兵器と原発は同じコインの裏表」に参加してきました。ロシアの科学者アレクセイ・ヤブロコフ博士は、最近暴露されたカーン博士のネットワークによる核拡散のみならず、世界各国の「平和利用から軍事利用」への例を挙げて、「原子力の平和利用」という論理がまやかしかることを明らかにしました。

海外参加者は日本の原子力発電所の多さに驚くとともに、8月の美浜原発での事故を「発展途上国並み」とも表現しました。高速増殖炉計画が破綻し、MOX計画も各地で強い抵抗にあって実現の見通しがなく、実質的にプルトニウムの需要はないのに、六ヶ所再処理工場のような危険な施設をあえて稼働させようとする理由を誰も理解することができません。

美浜事故だけでなく、この10年間にはさまざまな日本の原子力関連事故がありました。そのつど、初歩的なミス、捏造、データ隠し、管理の甘さなどが露呈されてきました。チェルノブイリ惨事以後、日本のように東海村、美浜と原子力施設で5年間に7人もの犠牲者を出した国があるのでしょうか？原子力関係の皆様方はこのことをどれほど深刻にとらえておられるのでしょうか？そうであれば、六ヶ所再処理工場のような原発以上にけた外れに危険な施設を稼働させるなど、実行できるはずがありません。

プルトニウム分離は必要ないばかりか、核拡散の面からも国際的に大問題になっていることです。日本がこのような政策を推し進めて、どうして北朝鮮を

非難することができるでしょうか。さらに韓国でもプルトニウム分離、ウラン濃縮、転換をしていたことがわかりましたが、韓国の科学者たちも「日本がやっているのにどうしていけないのか」という趣旨のことを発言していると言われます。プルトニウム・アクション・ヒロシマはそのことを警告し続けてきました。

原子力委員会の皆様、どうかウラン試験を実施せず、再処理計画を再考してください。今こそ、引き返す最後のチャンスです。青森県民や日本に住む人びとのみならず、少なくとも北半球の人びとが、チェルノブイリ以上の核の被害から守られるかどうかというときなのです。

プルトニウム・アクション・ヒロシマ代表
人庭里美